

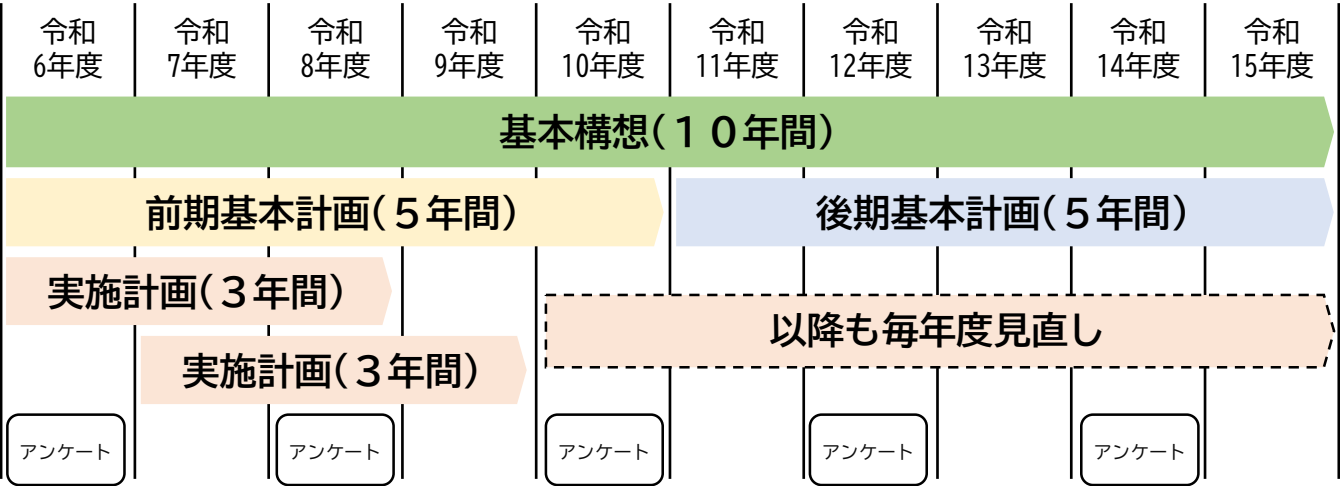
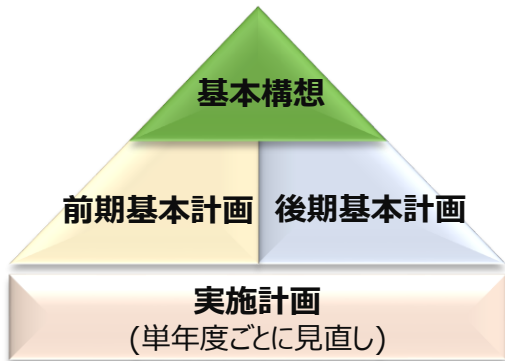
1. 第五次総合計画の策定にあたって

(1) 計画策定の趣旨

- ・ 第五次総合計画（期間：平成26年度～令和5年度）では、将来像を「みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井 ～人にぎわい 心かよう 水のふるさと～」と定め、市民と行政が互いに協力し合いながら、市民がしあわせを感じながら暮らせることを目指したまちづくりを進めてきました。
- ・ しかし、私たちを取り巻く環境は、大きく変化してきています。少子化等による人口減少の進展、新型コロナの感染拡大による影響、デジタル技術の高度化、多様性を認め合う社会の実現に向けた機運の高まりなどが社会や経済に広く影響を与えています。
- ・ また、大規模な自然災害や事故などから、市民の生命を守るという安全安心の取り組みの重要性が増しています。
- ・ こうした動きに的確に対応するとともに、これからの市政運営における長期的な展望を明確に掲げ、令和6年度からスタートする新たな総合計画を策定する必要があります。

(2) 計画の構成と期間

- ・ 基本構想（10年間 / 変更しない）… 基本理念、将来像、まちづくりの目標
- ・ 基本計画（5年間 / 前期・後期）… 重点戦略、個別施策ごとの目標や事業
- ・ 実施計画（3年間 / 毎年度作成）… 毎年度の具体的な事業の内容、予算等



(3) 策定にあたっての市民参加

- ・ 第六次総合計画の策定にあたり、「まちづくり基本条例」に基づき、市民の意向を計画に反映するために市民との協働による計画検討を進めてきました。
- ・ 平成24度から隔年で実施している「市民アンケート調査」をはじめ、市民の学びの場として開催した「市民まちづくりワークショップ」や市内6地区で開催した「地区まちづくりワークショップ」、そして市内の中学生・高校生を対象とした「長井の未来を育む少年会議」など、より多くの市民の意向や思いを把握し、計画に反映することを目指しました。

参加者数			
市民まちづくりワークショップ（計5回）			35名
地区まちづくりワークショップ （6地区×各3回＝計18回）	中央地区	20名	6地区合計 136名
	致芳地区	26名	
	西根地区	28名	
	平野地区	23名	
	伊佐沢地区	22名	
	豊田地区	17名	
市民WS・地区WSに参加した山形大学の学生			37名
長井の未来を育む少年会議			24名
合計			<u>232名</u>

参加者年代	～20歳	21～60歳	61歳～
参加者数	55名	121名	56名

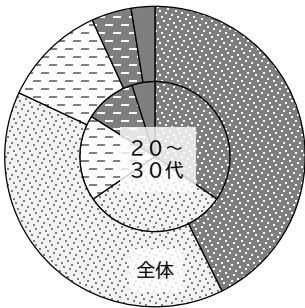
2. 市民の意向

(1) 令和4年度市民アンケート調査結果

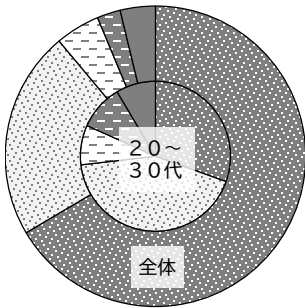
調査対象：20歳以上の長井市在住者 対象者数：1,000人
調査期間：令和4年7月1日～29日 回収数：400票（回収率40.0%）

①定住意向について

問：長井市に「自分のまち」といった愛着、親しみを感じていますか 問：これからもお住まいになりますか



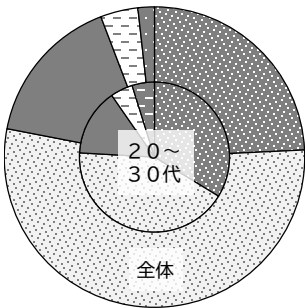
	全体	20～30代
■ 感じている	42.6%	34.6%
■ まあ感じている	39.3%	30.9%
■ あまり感じていない	11.2%	18.5%
■ 感じていない	4.3%	11.1%
■ わからない	2.5%	4.9%
※回答数	394件	81件



	全体	20～30代
■ 住み続けるつもり	66.5%	30.5%
■ 当分は住むつもり	22.4%	42.7%
■ できれば転居したい	4.8%	8.5%
■ 転居するつもり	2.5%	9.8%
■ わからない	3.8%	8.5%
※回答数	397件	82件

②しあわせについて

問：あなたは、「幸せ」だと思いますか



	全体	20～30代
■ 大に思う	24.2%	33.7%
■ やや思う	53.8%	42.2%
■ どちらとも言えない	16.2%	14.5%
■ あまり思わない	4.0%	4.8%
■ 思わない	1.8%	4.8%
※回答数	396件	83件

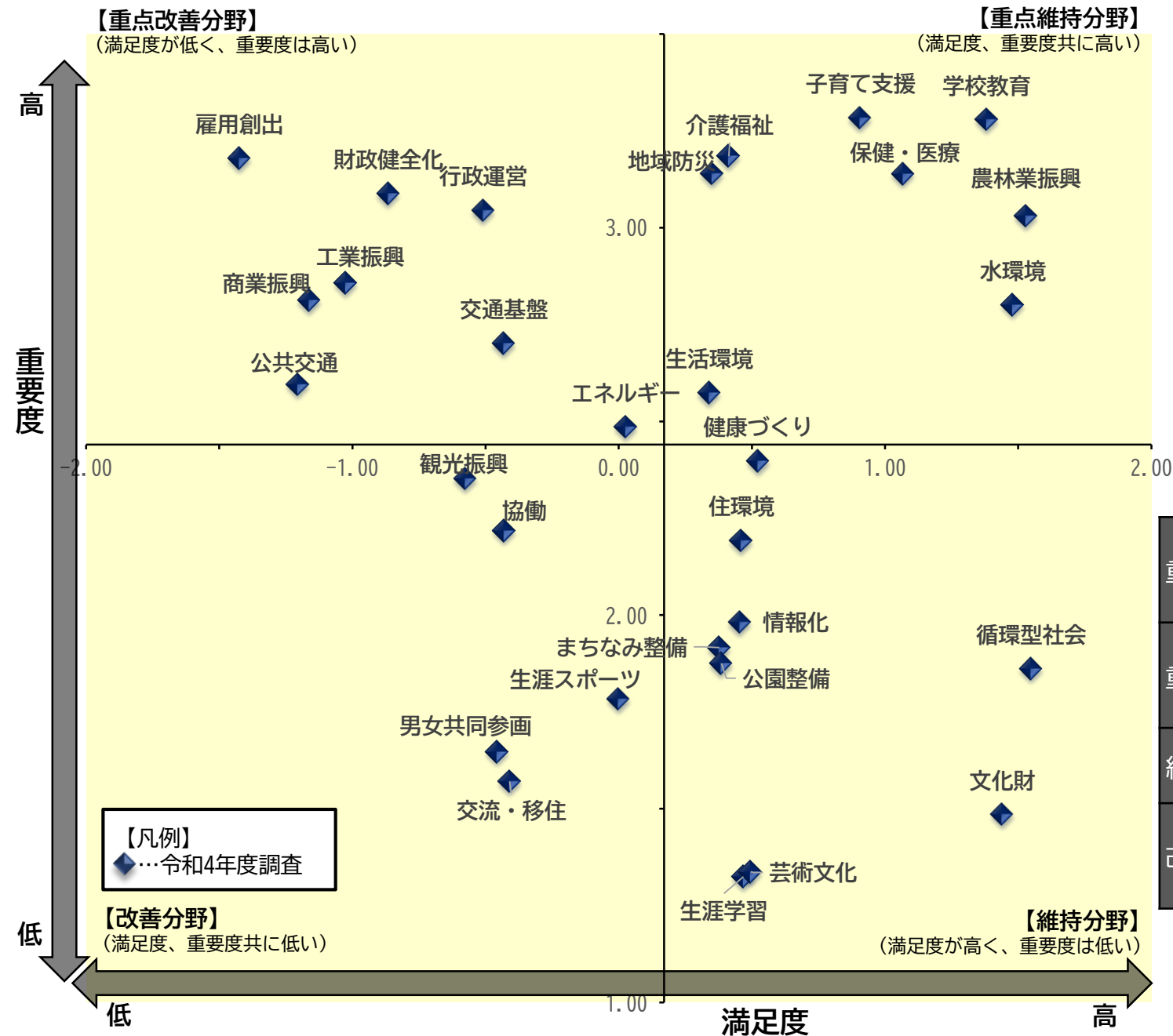
①定住意向について

- ・全体では80%以上が長井に愛着を感じている。
20～30代は愛着を感じている割合が65%程度とやや低い。
- ・全体では約90%の人に定住意向がある。
20～30代は定住意向がある割合が70%程度とやや低い。

②しあわせについて

- ・全体では約80%の人が幸せを感じている。
20～30代についても幸せを感じている割合が約75%とほとんど変わらない結果だが、特に30代で「あまり思わない」「思わない」との回答が全体に比べ高い傾向であった。

③ 市の取り組みの満足度・重要度



重点維持分野	今後も重点的に取り組みを進めていく必要がある分野
重点改善分野	改善をしながら重点的に取り組みを進めていく必要がある分野
維持分野	取り組みを継続していく必要がある分野
改善分野	改善をしながら取り組みを進めていく必要がある分野

※縦軸との交点は0.17（満足度の平均値）、
横軸との交点は2.44（重要度の平均値）

(2) 市民意見

■ワークショップで出た意見（一部抜粋）

良いところ	課題	10年後の予想
・自然環境 ・食や水 ・住民の人柄 ・文化	・空き家 ・除雪 ・若者が働く場所が少ない ・交通の便 ・子どもの遊び場が少ない	・人口減少 ・空き家や耕作放棄地増加

10年後に空き家や耕作放棄地が増えていそうで心配。

10年後は地区の住民がかなり少なくなってしまうのでは。

田んぼや桜といった景観、伝統文化等の長井の良さを将来に残したい。

自分たちが自慢できるまちにするため、子どもと子育てに重点を置いてはどうか。

企業誘致やサテライトオフィス等で若者が働きたいと思える環境にしたい。

地区の外だけでなく、地区の人にも情報を発信していきたい。

移動式の店舗が地区に来てくれるといいな。

昔ながらの良いところと新しい取り組みが共存しながら、まちが成長してほしい。

新しい生活スタイルのモデルとして、発信してはどうか。

地区出身の東京在住者とコラボ事業をしてはどうだろう。

■少年会議で出た意見（一部抜粋）

良いところ			
・食や水 ・文化 ・交通事故が少ない	・観光（花、風景） ・eスポーツや外国人との交流	・自然（空気、雪、カモシカ等） ・教育 ・歴史的な建造物を生かしている	・競技用けん玉生産量日本一 ・公園

良いところを伸ばすために…

秋と冬がにぎわう観光イベントを開催してはどうか。
（良いところ：観光）

自然に関連したイベントを開催してはどうか。
（良いところ：自然）

イベント等を通して楽しみながら自然の大切さを知ってもらいたい。
（良いところ：自然）

カップル向けに、デートスポットマップを作っては。
（良いところ：施設）

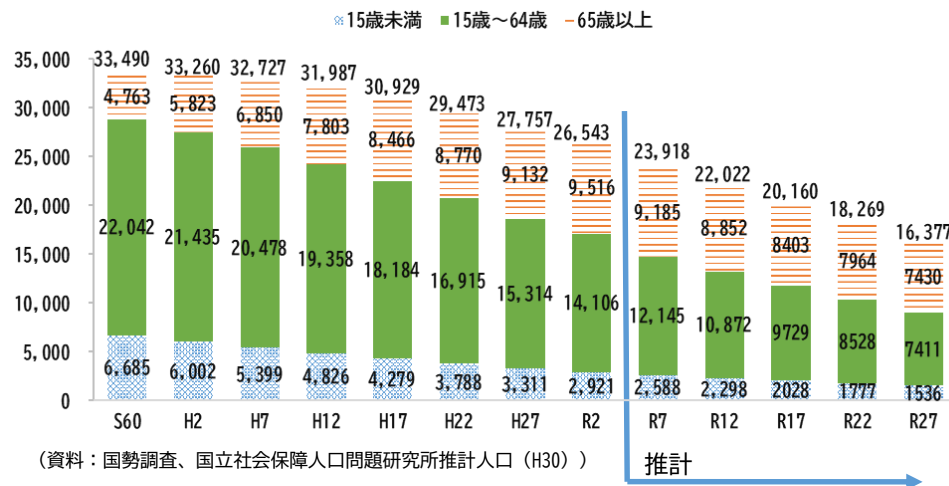
【人口について】

- ・平成22年に人口3万人を割り込み、**令和2年は2万6,543人**
- ・子ども世代と成年世代が減少する一方で、**高齢者世代は増加**
- ・社会増減は、**15～19歳、20～24歳の年代の減少幅が大きい**

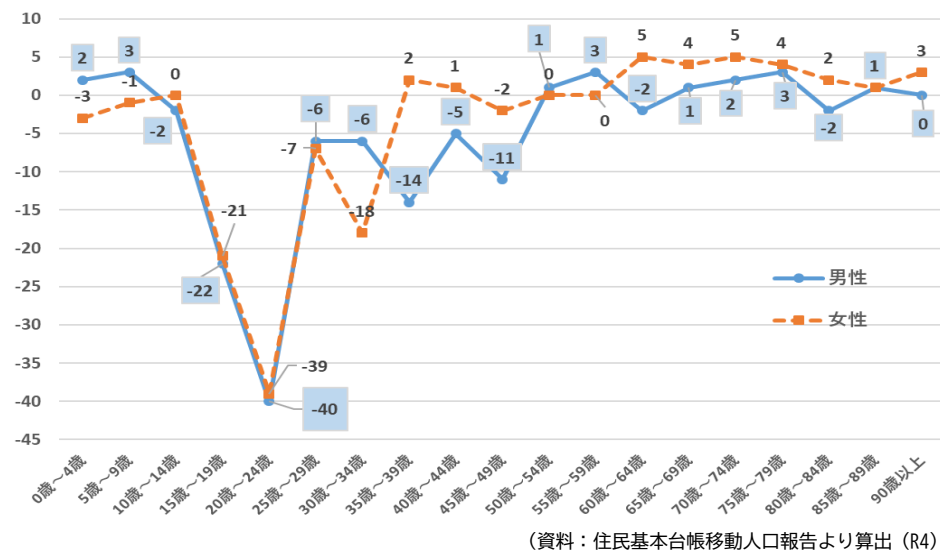
3. 長井市の現況と将来の見通し

(1) 人口

人口の推移と今後の推計（グラフ）

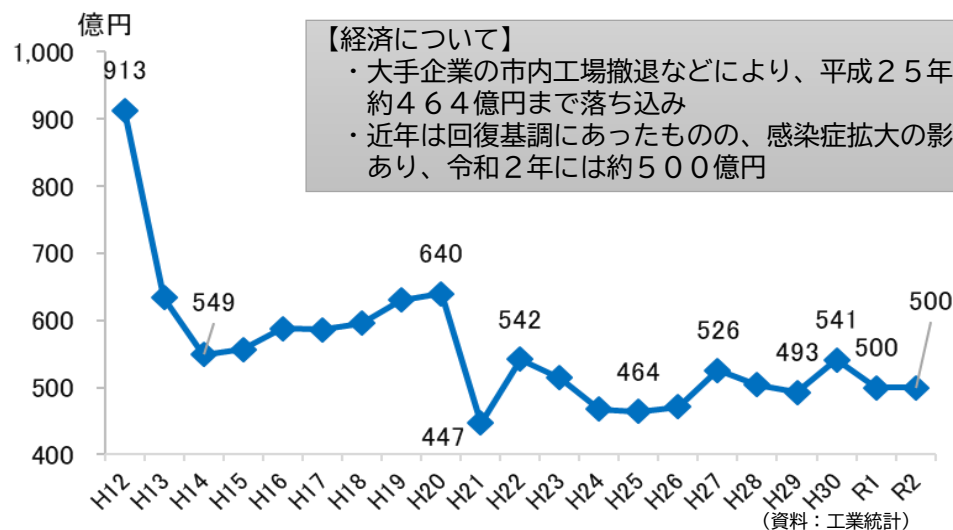


男女別・年代別の社会増減数

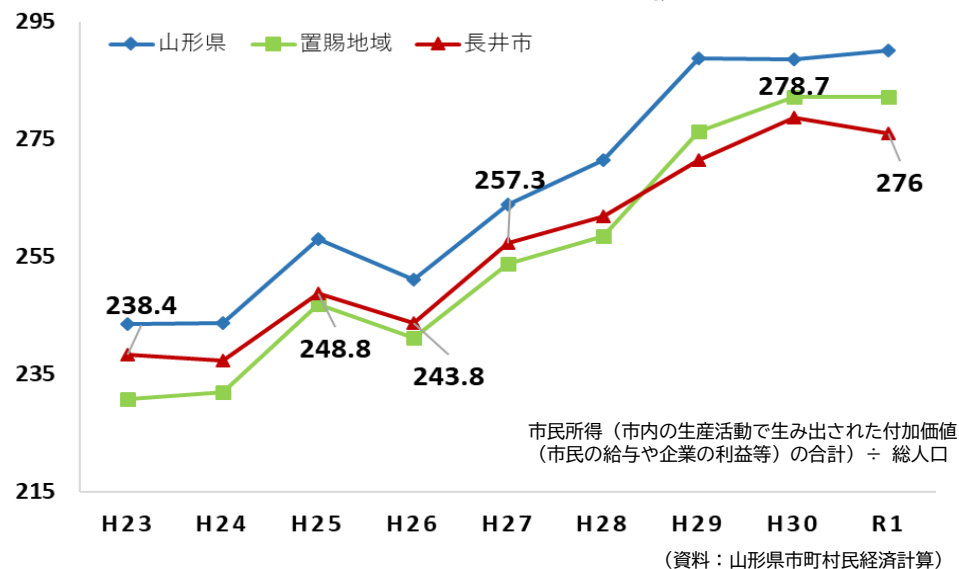


(2) 経済

製造品出荷額の推移



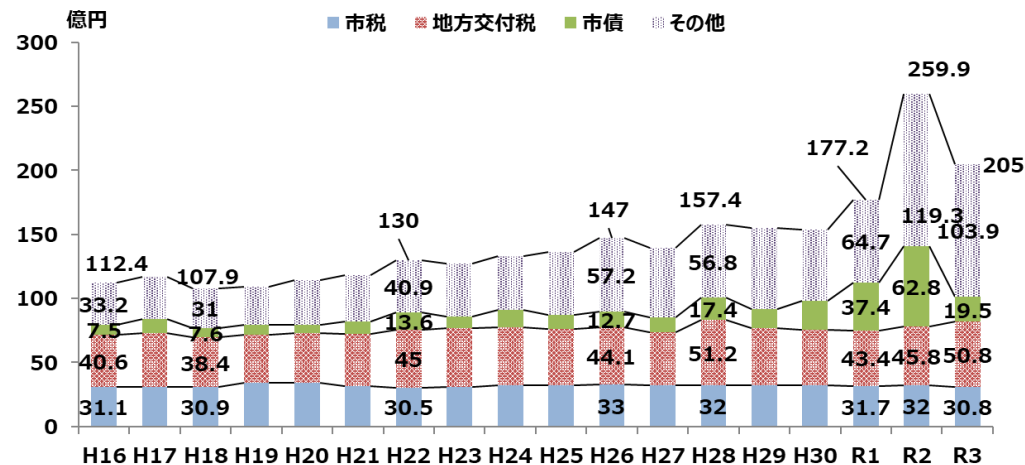
一人あたり市民所得の推移



(3) 財政

【歳入】

歳入の推移



(資料：各年度決算、財政の中期見通し)

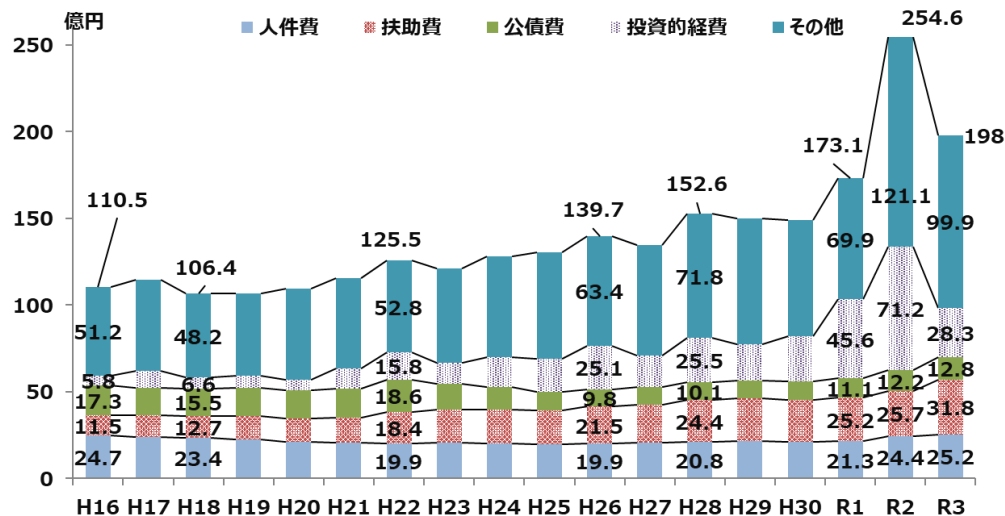
基本的な財源である市税は、平成26年度には約33億円ありましたが、令和3年度には約31億円に減少。

近年は99%を超える高い収納率を維持しており今後も同程度の収納が見込まれるものの、人口規模の減少に伴い税収は徐々に減少していくことが予測されます。

※ 「その他」に類する歳入としては、ふるさと納税をはじめとする寄附金、新型コロナウイルス感染症に関連する特別定額給付金や地方創生臨時交付金等による国庫支出金が含まれている。
特に、令和2年度には新型コロナウイルス感染症に関する歳入が多かったことから約260億円と大きく増加している。

【歳出】

歳出の推移



(資料：各年度決算、財政の中期見通し)

歳出の約2割を占める人件費は、平成16年度をピークに減少。平成22年度以降は約20億円程度で推移していましたが、令和2年度には約24億円に増加。

平成21年度以降、老朽化した公共施設の大規模改修等によって投資的経費が増加傾向にあったが、令和3年度には減少。

※ 「その他」の歳出については、歳入と同様に分類している。
特に、令和2年度には新型コロナウイルス感染症に関する歳出が多かったことから約255億円と大きく増加している。

4. まちづくりの課題

人口減少や少子高齢化は今後も進行が見込まれ、経済活動や地域活動へのさらなる影響が予測されます。長井市が将来にわたって住みやすいまちであり続けるには、人口減少に歯止めをかける取り組みとともに、人口が減っても持続可能なまちを創っていくことが不可欠です。

また、国連で採択されたSDGsの達成に向けて、行政と民間が力を合わせた取り組みが求められています。

以上のことを踏まえて、これからの長井市のまちづくりの課題について整理します。

(1) 市民の健康と安全安心の確保

平成24年度から隔年で実施している市民意向調査では、「しあわせのために必要なこと」の項目で最も多い回答が、すべての年度において「健康であること」でした。市民が健康で心豊かに暮らすことができるよう、病気の予防に取り組める機会を提供しつつ、安心して在宅で療養できる環境の整備と介護福祉の充実が求められています。

また、子育て世代が安心して長井で暮らせるよう、子育て支援を充実し満足度の向上を図っていくことも重要となっています。

地震や水害等の自然災害や事件事故から市民の命を守るには、防災拠点の充実や関係機関の連携協力など、安全安心のまちづくりが重要になっています。まちの基盤（インフラ）についても、国の補助金等を最大限に活用するなど、財政上の負担軽減を図りながら順次更新・改修が必要です。

(2) 誰一人取り残さない社会の実現

近年、年齢や性別、国籍、障がいの有無などに係わらず、全ての人が共存できる社会実現の機運が高まっています。長井市においても、障がい者・外国人との共生支援、柔軟な働き方ができる環境整備、男女共同参画社会に向けた理解促進、学校において障がいのある人もない人も共に学ぶ仕組み（インクルーシブ教育）の推進、など、誰一人取り残さない社会の実現に向けて、官民一体となって取り組んでいく必要があります。

(3) 交流の促進と定住意向の向上

長井がより住みやすいまちとなり、定住人口を増やしていくためには、引き続きまちの魅力を向上させていくことが必要です。平成30年2月に国の選定を受けた重要文化的景観といった地域資源の観光利用を促進し、道の駅「川のみなと長井」や旧長井小学校第一校舎等の拠点施設を活用しながら、まちなかのにぎわい創出に取り組んでいくことが重要となっています。

また、長井市の将来を担い、世界で活躍できる子どもを育てるために、国際感覚を持つ子どもの育成や多様な学びの場の提供に取り組むことが求められています。郷土を愛する子どもが育ち、官民協働で魅力的な働く場やニーズに合った住環境の提供を推進することで、若者や子育て世代が集まり・とどまる、将来にわたって持続可能なまちづくりを図っていくことが重要です。

(4) 暮らしの満足度の向上

人口減少・少子高齢化が進み、経済活動や地域活動に影響が及ぶ中では、市民が暮らしやすいよう、様々な仕組みを市民に合わせて見直していくことが求められています。市民とともに、将来を見据えながら持続可能なコミュニティの構築や支え合いの地域づくり、学校とコミュニティの協働の推進、地域の財産である文化財の保護や文化活動の支援を検討していくことが必要です。

高齢化が進む中でも便利で快適に暮らせるよう、都市機能の整備や公共交通の利便性向上・利用促進を図っていくことも重要となっています。

(5) デジタル技術の活用

生産年齢人口が減少する中で市民の生活を維持・向上していくためには、デジタル化によって効率化と効果の最大化を進めることが重要になっています。民間とともに農業の高収益化や企業の生産性向上など、デジタル技術の導入支援を検討していくことが必要です。

また、行政運営においてもデジタル化により効率化を進め、様々な分野での市民生活の利便性向上が求められています。

～参考～ （六次総の骨格（案）をもとに作成）

六次総期間に各部門で取り組む主な施策

取り組みの方向性	総務部門	文教部門	厚生部門	産業部門	建設部門
安心を高める	・災害に強いまちづくり	・スクールコミュニティを見据えた施設整備	・子育ての満足度向上 ・健康づくりの推進 ・福祉・介護・医療サービスの充実	・有害鳥獣対策 ・安全な地産生産物の提供 ・良好な森林環境整備	・安心なまちのインフラ整備
すべての人を包み込む【インクルージョン】	・多様性や男女共同参画の理解促進	・インクルーシブ教育の推進	・障がい者・外国人との共生支援	・柔軟な働き方ができる環境整備	・障がい者や外国人も安心して暮らせる市営住宅の環境整備
人をあつめる・とどめる	・関係人口の拡大 ・まちの魅力発信	・国際感覚を持つ子どもの育成 ・多様な学びの場の提供 ・郷土を愛する子どもの育成	・多様なスポーツ機会の創出 ・多様な遊び場の提供 ・誰でも集える居場所づくり	・地域資源の活用と利用促進 ・まちなかのにぎわい創出 ・魅力的な働く場づくり	・ニーズに合った住環境の提供
市民にとって最適なまちをつくる【共創】	・持続可能なコミュニティの構築 ・公共交通の利用促進・利便性向上	・学校の在り方(スクールコミュニティ)の検討	・支え合いの地域づくり ・健康増進のための基盤づくり	・文化活動への支援 ・文化財の保護 ・持続可能な観光地域づくり	・便利で快適な都市機能の整備
効率化・効果の最大化をすすめる【デジタル】	・効果的・効率的な行政運営 ・市民生活の利便性を高めるデジタル技術の活用	・GIGAスクール構想の推進	・市民生活の利便性を高めるデジタル技術の活用 ・デジタル技術を活用した健康づくり	・スマート農業、高収益化推進 ・企業の生産性向上ネットワーク ・観光情報集約と発信力強化	・AIなどのデジタル技術を活用した道路、水路などインフラの効率的な管理

5. 目指すまちの姿

(1) まちづくりの基本理念

水と緑と花の長井 … 長井市を表す代表的なフレーズ

これまで

- ・ 長井市を形容する言葉として多くの場面で使われ、市民に広く定着してきた。

これから

- 今後、人口減少をはじめ、市を取り巻く状況の大きな変化が予測されるなか、定住意向の向上やUターンの増加、協働のまちづくりを推進していくためには、郷土愛を育むことが重要。
- そのため、先人たちの知恵と努力によって「水と緑と花の長井」として発展してきた長井市の自然環境や文化、産業をより一層大切に継承していかなければならない。
- また、交流人口の拡大に向けて、市外の人々が長井を訪れた際に、「水と緑と花」をとおして長井の良さを感じられるまちづくりが求められる。

第六次総合計画

- ・ 第六次総合計画では、「水と緑と花の長井」を次世代へとつなぐとともに、さらに発展させていき、市民のしあわせを創っていくことを基本的な理念とする。
- ・ 以上の考え方を踏まえ、第六次総合計画期間において目指すべき将来像を定める。

(2) 目指す将来像【仮題】

いつまでも住み続けたいまち 長井 ～みんなしあわせ ずっと笑顔～

①

②

③ ④

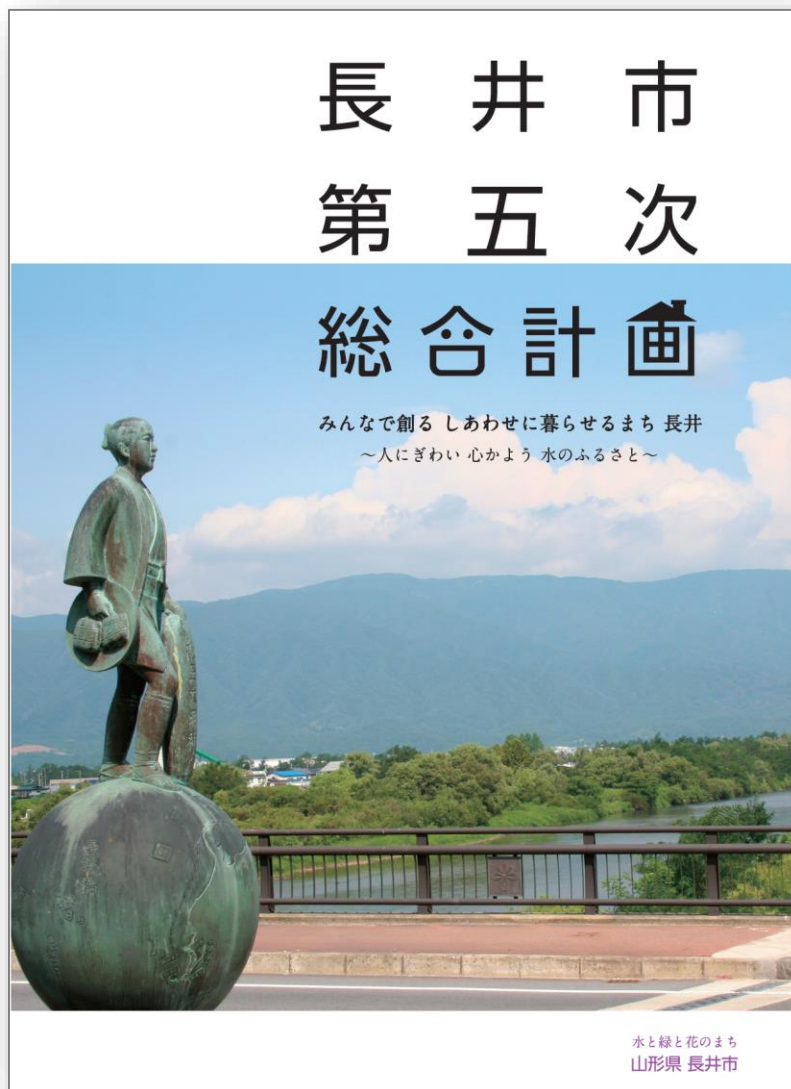
⑤

- ① これまで培ってきた循環の理念を受け継ぎながら、SDGsの達成を目指し、将来の世代を考えた取り組みを進めていくことで、持続可能なまちに！
- ② 急激な人口減少にならないよう、市民のニーズに適切に対応し、定住意向が高まるまちに！
- ③ 国籍、性別、障がい等にかかわらず、互いに認め合い、誰もが活躍できるまちに！
- ④ 市民のしあわせを市民とともに創りあげていくまちに！
- ⑤ 子どもからお年寄りまで、健康で安心した暮らしができ、笑顔があふれるまちに！

※六次総における「水と緑と花の長井」と将来像の表し方

- ◆ 六次総を製本する際は、「水と緑と花の長井」が長井市を代表するフレーズとして見えるようにレイアウトを検討

第五次総合計画の表紙



第六次総合計画（表紙レイアウト例）



6. まちづくりの基本目標（仮題）

（１）健やかに安心して暮らせるまちづくり

〔健康・安心分野〕

➤ 防災・危機管理 / 環境・エネルギー / 交通安全・防犯・相談 / 保健・医療 / 福祉 / 子育て

（２）夢を育み、元気に活躍できるまちづくり

〔教育・生涯活躍分野〕

➤ 学校教育 / 社会教育 / 文化・芸術 / 生涯スポーツ

（３）産業の活力あふれるまちづくり

〔産業・しごと分野〕

➤ 農林業 / 工業 / 商業 / 観光 / 雇用

（４）住みやすく住み続けたいくなるまちづくり

〔社会基盤分野〕

➤ 都市整備・住宅 / 道路・河川 / 上下水道 / 公共交通 / 公共施設整備

（５）ともに創る持続可能なまちづくり

〔市民活動・行政分野〕

➤ 交流・定住 / 地域づくり / 広報・公聴 / 財政 / 行政・デジタル

※ 今後、分野横断で取り組む**重点戦略**を設定する方向で検討中（８月頃を予定）

※基本目標設定の考え方

五次総

重点戦略

- ①長井の子育て魅力UP戦略
- ②長井のまちなか魅力UP戦略
- ③長井で働く魅力UP戦略

基本目標

- 健やかにいきいきと暮らせるまちづくり
(保健・医療・福祉分野)
- 未来を担う心豊かな子どもが育つまちづくり
(子育て・教育分野)
- 心豊かで元気に活動できるまちづくり
(生涯学習・スポーツ分野)
- 資源を活かし活力を生み出すまちづくり
(産業経済分野)
- 住みやすく魅力あふれるまちづくり
(まちの基盤分野)
- みんなで築く安全安心なまちづくり
(安全・安心分野)
- 市民と行政が一体となった協働によるまちづくり
(協働のまちづくり分野)
- 市民と共に未来を創る体制づくり
(行財政運営分野)

個別施策

- 1-① 保健・医療
- 1-② 福祉
- 2-① 子育て支援
- 2-② 学校教育
- 3-① 生涯学習・文化 **分割**
- 3-② 生涯スポーツ
- 4-① 農林業振興
- 4-② 工業振興
- 4-③ 商業振興
- 4-④ 観光振興
- 4-⑤ 雇用対策
- 5-① 都市整備・住宅
- 5-② 道路・河川
- 5-③ 上下水道
- 5-④ 公共交通
- 6-① 環境・エネルギー
- 6-② 交通安全・防犯
- 6-③ 防災・危機管理
- 7-① 交流・定住促進
- 7-② コミュニティ
- 7-③ 広報・相談 **分割**
- 8-① 財政運営
- 8-② 行政運営
- 8-③ 公共施設整備

六次総

※個別施策は仮設定

基本目標

- 1-① 防災・危機管理
- 1-② 環境・エネルギー
- 1-③ 交通安全・防犯・相談
- 1-④ 保健・医療
- 1-⑤ 福祉
- 1-⑥ 子育て
- 2-① 学校教育
- 2-② 社会教育 **名称変更**
- 2-③ 文化・芸術 **名称変更**
- 2-④ 生涯スポーツ
- 3-① 農林業
- 3-② 工業
- 3-③ 商業
- 3-④ 観光
- 3-⑤ 雇用
- 4-① 都市整備・住宅
- 4-② 道路・河川
- 4-③ 上下水道
- 4-④ 公共交通
- 4-⑤ 公共施設整備
- 5-① 交流・定住
- 5-② 地域づくり **名称変更**
- 5-③ 広報・公聴 **新規**
- 5-④ 財政
- 5-⑤ 行政・デジタル **新規**

➤ 基本目標1と6を合体し、「子育て」を追加

➤ 基本目標3に「学校教育」を追加

➤ 基本目標4そのまま

➤ 基本目標5に「公共施設整備」を追加

➤ 基本目標7と8を合体

※基本構想の構成の比較

五次総

1. 第六次総合計画の策定にあたって

- (1) 総合計画策定の趣旨
- (2) 計画の構成と期間
- (3) 策定にあたっての市民参加

2. 長井市の現状と将来の見通し

- (1) これまでのまちづくり **削除**
- (2) 市民の意向
 - ① 市民意向調査
 - ② 若者意向調査
 - ③ 市の取り組みの満足度・重要度
- (3) 現在の長井市の姿と将来の見通し
 - ① 人口
 - ② 経済
 - ③ 財政

3. まちづくりの課題

- (1) 市民の健康と安全安心の確保
- (2) 少子高齢社会への対応
- (3) 地域経済の立て直し
- (4) まちの魅力の向上
- (5) 公共施設・まちの基盤の老朽化対策
- (6) 持続可能なまちづくり

4. 目指すまちの姿

- (1) まちづくりの基本理念
- (2) まちの将来像
- (3) 目指すまちづくりの方向性 **削除**

5. まちづくりの基本目標

- (1) ~ (8)

六次総

1. 第六次総合計画の策定にあたって

- (1) 総合計画策定の趣旨
- (2) 計画の構成と期間
- (3) 策定にあたっての市民参加

2. 市民の意向

- (1) 令和4年度市民アンケート調査結果
 - ① 定住意向について
 - ② しあわせについて
 - ③ 市の取り組みの満足度・重要度
- (2) 市民からの主な意見

3. 現在の長井市の姿と将来の見通し

- (1) 人口
- (2) 経済
- (3) 財政

4. まちづくりの課題

- (1) 市民の健康と安全安心の確保
- (2) 誰一人取り残さない社会の実現
- (3) 交流と定住の促進
- (4) 暮らしやすさの向上
- (5) デジタル技術の活用

5. 目指すまちの姿

- (1) まちづくりの基本理念
- (2) まちの将来像

6. まちづくりの基本目標

- (1) ~ (5)